6/22 赤旗

# ラジオ番組 批判の声殺到

# マイナカード立ち止まれ

マイナンバーカードを巡り、トラブルが続発し、政府は「総点検本部」を設置することを決めましたが、21日のTBSラジオ「森本毅郎スタンバイ！」には、視聴者から、「全面的に見直せ」と批判が殺到しました。

「トークファイル」のコーナーで視聴者から寄せられた意見を紹介。マイナンバーを進めながら総点検するという政府の方針について、「アクセルを踏んだ状態で、ブレーキをかけるようなもの」「ブレーカーを切らないで、電気をつけると、みんな感電しちゃう」「登山だったら、あと100㍍でも危険があれば立ち戻る。（このまま進めば）遭難してしまう」などとたとえながら、疑問を呈しました。

「霞が関（官僚）の机上と現場の乖離（かいり）、ここまでくると笑えてくる」という声の一方、聴く耳を持たず進める政府に対し、「まるで太平洋戦争の日本みたい。走りだすと止まれない。決まったら、立ち止まることができない古い体質」とバッサリ。茨城県ひたちなか市のシステムエンジニアの男性は、〝消えた年金〟問題を指摘、「政府には能力がない。全面的に見直すべきだ」。

東京・江戸川区の男性は、マイナンバーに29項目もの情報がひもづけられていることをあげ、「どこまで、（国民を）監視するのか。全容を国民に示せ。莫大（ばくだい）なカネを使って利便性ばかり強調するが、国民監視の体制が心配」とのべました。

「税金の無駄遣い」「裏金をもらっているんでは。おいしい天下り先もある」という声も多く、神奈川県の男性は、「総点検の間、運用を止めるのが大前提。なぜここまでやるのか。大きな利権が隠されていると疑問に思う」。

政府が国民の声に耳を傾けるときです。

（藤沢忠明）